

「ただいま」「おかえり」と言い合えるまちに



シトラスリボンの輪を広げよう

新型コロナウイルス感染症患者や医療従事者などへの偏見や差別を防ぐと、県内の市民グループが作成した「シトラスリボンプロジェクト」が広がっています。

このプロジェクトのシンボル「シトラスリボン」は、県の名産である柑橘をイメージしたシトラスカラーで、3つの輪は、「地域」「家庭」「学校や職場など」を意味しており、それぞれの場所や人がつながり、安心・安全が守られるまちをつくらうという願いが込められています。

本市で広がるシトラスリボンの輪

平成30年に結成した小中学生のハンドメイド作家グループ「水引ガールズ」は、「結ぶことで気持ちを込める」という意味を持つ「水引」を用い、シトラスリボンの作り方を動画投稿サイト「ユーチューブ」に配信。また、集会などで配布したいとの要望を受けると、「一人ひとりに思いが届くように」と、心を込めて製作しています。

伊予水引金封協同組合内の美結会は、市内小中学校の先生に結び方を伝授。学習活動の一環として、子どもたちに伝統工芸の水引に触れる機会を作ると共にプロジェクトの意義を伝えることで、温かい心を育む一翼を担っています。

暁雨館では、シトラスリボンをプリントした缶バッジを製作。来館者にプロジェクトの説明と共に「また気軽に来て欲しい」という思いを込めて配布し、賛同の輪を広げています。

「ただいま」「おかえり」と

言い合えるまちへ

新型コロナウイルス感染症の拡大阻止や経済対策はもちろん大事ですが、でも、忘れてはならないことは、たとえウイルスに感染してしまっても、地域の中で笑顔の暮らしを取り戻せるということの大切さです。

「ただいま」「おかえり」と言い合えるまちは、誰にとつても暮らしやすいまちであるはずですが、シトラスリボンの輪が広がることで、コロナ禍であっても、優しい気持ちで毎日を過ごすことができるのではないのでしょうか。

当たり前の日常を、当たり前にするために、シトラスリボンの輪を広げていきましょう。

賛同していただける方へ

次に紹介する方法で、メールを送っていただけとうれしいです。

- ① 柑橘をイメージした色のリボン・水引・ひもなどを準備します。
- ② その材料で3つの輪をつくれれば「シトラスリボン」のできあがり。作り方は水引ガールズの動画を参考にしてください。下記QRコードまたは、「シトラスリボン」を水引で検索！
- ③ この「シトラスリボン」を身に着けたり、飾ってみてください。周りの方々へ贈りあうのも良いかもしれません。
- ④ リボンの画像をSNSで発信することも、このプロジェクトが広まるきっかけになります。



看護師の母から、新型コロナウイルス感染症について、職場に限らず生活の多くの場面で気を使っていると聞いていたこともあり、シトラスリボンプロジェクトを知った時は、とても温かい気持ちになったことを覚えています。その後、水引ガールズの活動に影響を受け、オリジナル缶バッジの製作を決めました。この活動を通して、いつでも、誰にでも「おかえり」と笑顔で言える、優しい心が広がって欲しいと願っています。



暁雨館 学芸員
三宅 媛子 さん



大好きな水引でシトラスリボンプロジェクトに参加できることを、うれしく思います。水引でのシトラスリボンの結び方は、結び目の表裏が「口」と「十」の形となることから「叶結び」といいます。この活動が更に広がって欲しいという願いが「叶う」ことに期待し、今後も心を込めて製作したいです。また、今回作成した動画を多くの人が見て、実際に作ることで、この活動について考えるきっかけになればいいなと思っています。



水引ガールズ
村上 真風羽 さん
山形 かなな さん
近藤 悠実 さん